

# 防災指針（素案）について

|   |              |    |
|---|--------------|----|
| 1 | 策定の背景        | 1  |
| 2 | 主な検討内容       | 1  |
| 3 | 災害リスク分析      | 2  |
| 4 | 防災上のリスクの抽出   | 11 |
| 5 | 防災まちづくりの取組方針 | 12 |
| 6 | 具体施策・目標値     | 16 |

# 防災指針（素案）

## 1 策定の背景

近年、自然災害は頻発・激甚化の傾向を見せており、まちづくりの検討においても防災・減災の観点からの検討を行うことが必要となっています。こうした中で、令和2年9月には都市再生特別措置法が改正され、災害リスクが高い地域について居住促進区域からの原則除外を徹底するとともに、居住促進区域に残存する災害リスクに対しては、立地適正化計画に「防災指針」を定め、計画的かつ着実に必要な防災・減災対策に取り組まなければならないことが示されています。

本市においても防災指針を定め、「光市国土強靱化地域計画」「光市地域防災計画」といった防災関連計画等と連携・整合を図りながら、居住促進区域内における災害リスクの回避・低減を図ることとします。

## 2 主な検討内容

本市では、以下の4つのステップにより防災指針の検討をします。

### ①災害リスクの分析

災害ハザード情報を網羅的に収集し、今後想定される災害リスクを、災害種別ごとに整理します。また、都市情報（人口分布や都市機能施設分布）との重ね合わせにより、都市空間における災害リスクを分析します。

### ②都市防災におけるリスクの抽出

災害リスクの分析結果から、災害リスクの高い地域や将来都市構造上の課題を抽出するとともに、地区ごとの防災上のリスクを整理します。

### ③防災まちづくりの基本的な方針、対応方針の検討

抽出した災害リスクと課題を踏まえた上で、居住促進区域の設定の方針、並びに地区ごとの対応方針を検討します。

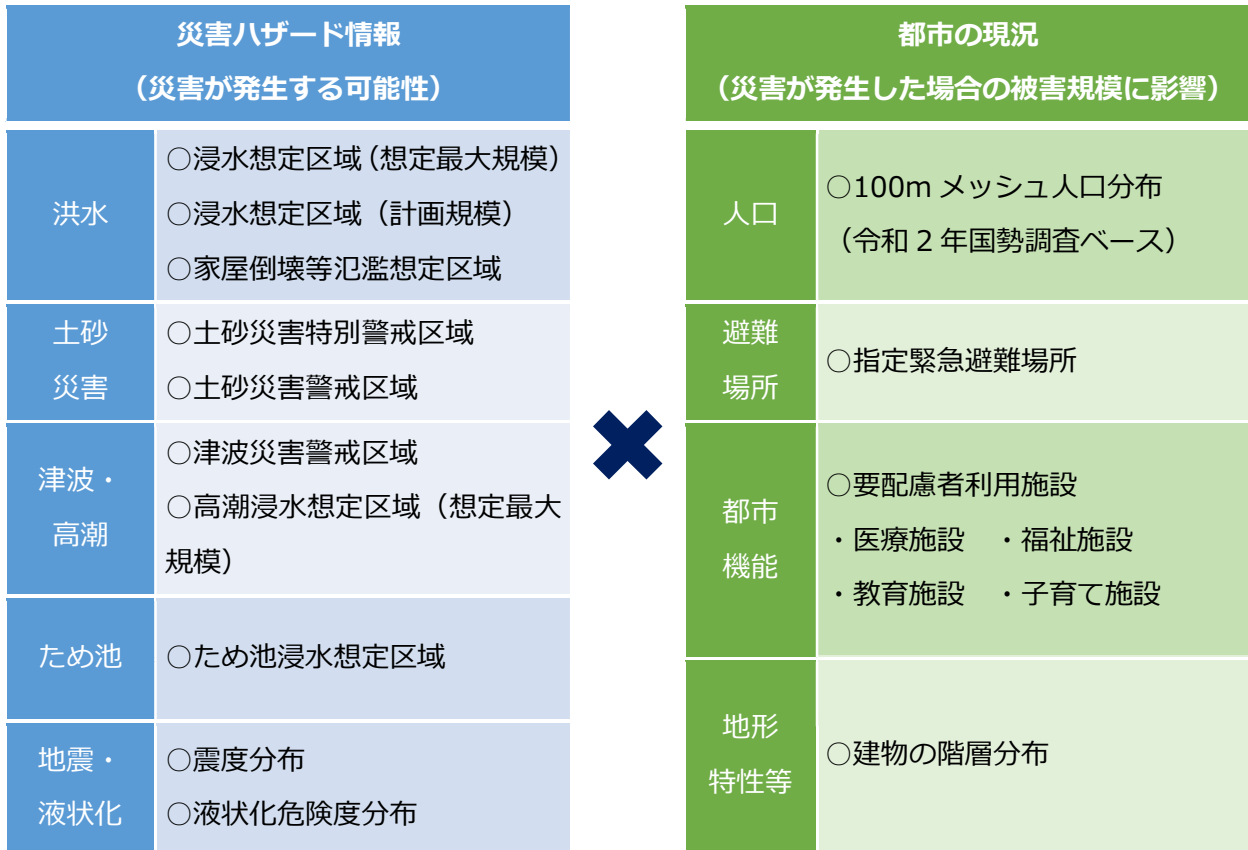
### ④具体的な取組、スケジュール、目標値の検討

具体的なハード対策・ソフト対策の取組及び取組スケジュールを検討するとともに、取組の進捗状況を評価する指標及び目標値を設定します。

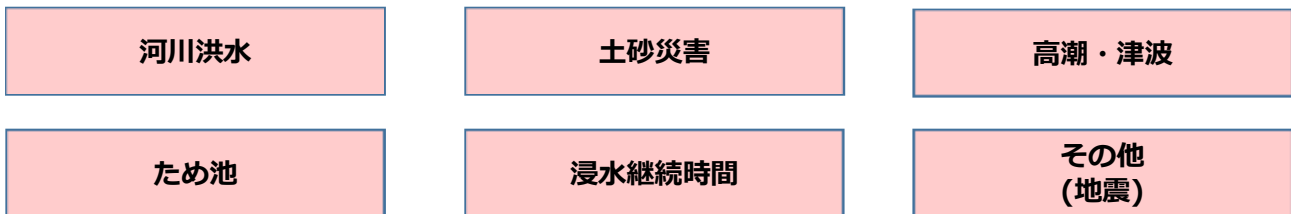
### 3 災害リスクの分析

本市におけるハザードエリア及び都市の現況に関する情報を収集し、重ね合わせることによって、さまざまなパターンにおける災害リスク分析を行い、現状において災害リスクの高い地域を抽出するとともに、居住促進区域における防災上の課題を抽出します。

《情報の組み合わせによる災害リスク分析》



#### 防災上の課題の抽出



※計画規模：L1（およそ100年に一度の確率で起きると想定される降雨）

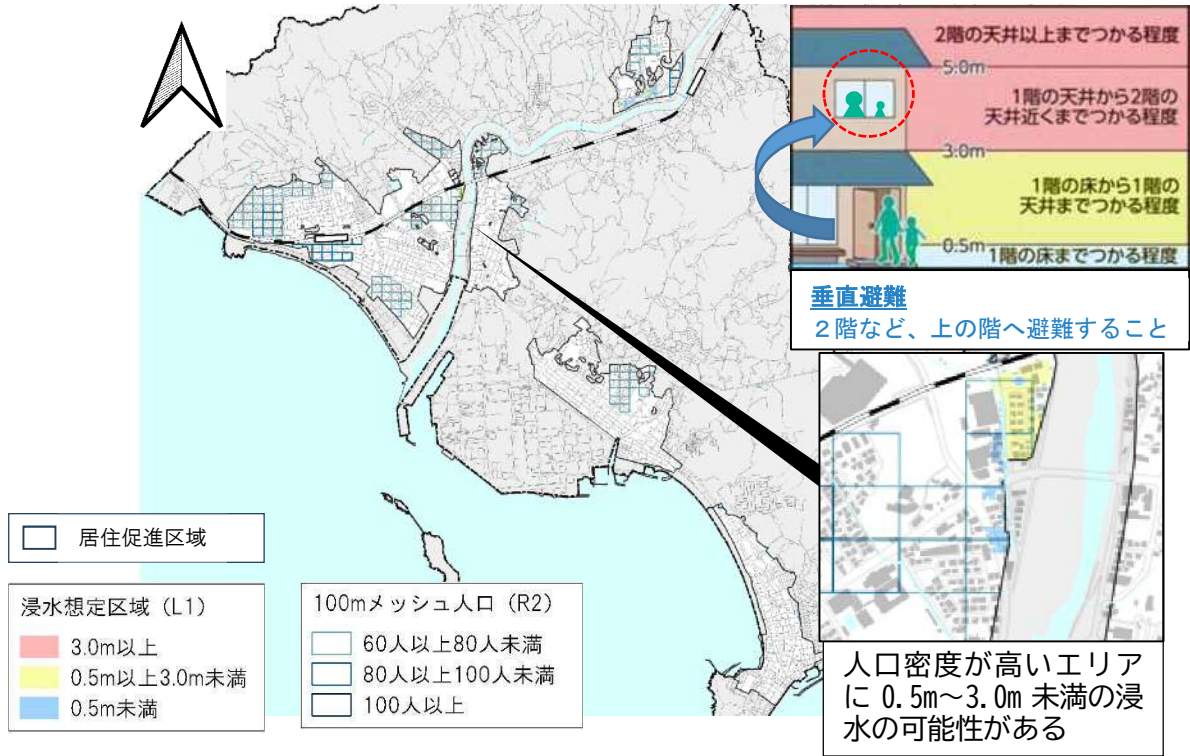
想定最大規模：L2（およそ1,000年に一度の確率で起きると想定される降雨）

# (1) 洪水

## ア 浸水想定区域 (計画規模 L1)

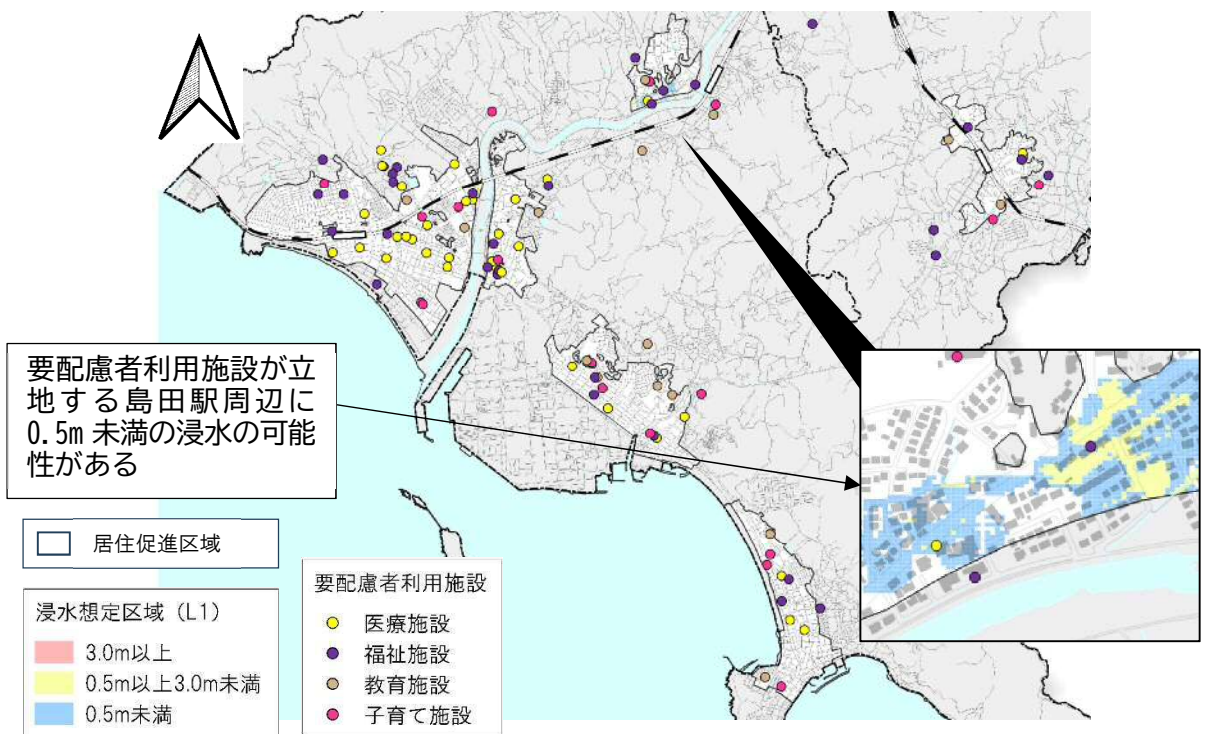
### (ア) 人口密度との重ね合わせ

島田川周辺の人口密度が高い一部のエリアに 0.5m～3.0m 未満の浸水の可能性があります。



### (イ) 都市機能との重ね合わせ

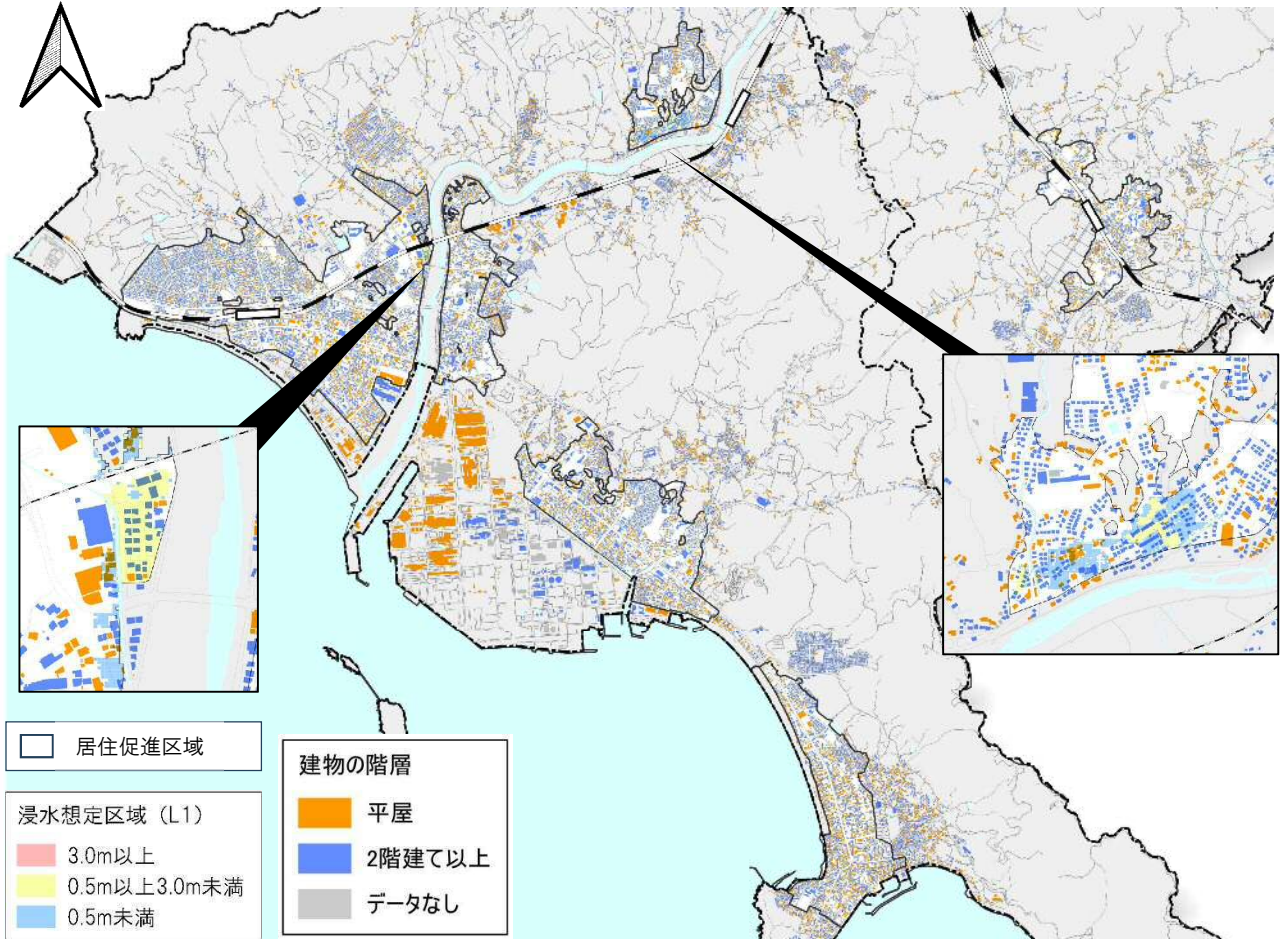
島田駅周辺の要配慮施設が立地しているエリアに、0.5m 未満の浸水の可能性があります。





### (ウ) 建物の階層分布との重ね合わせ

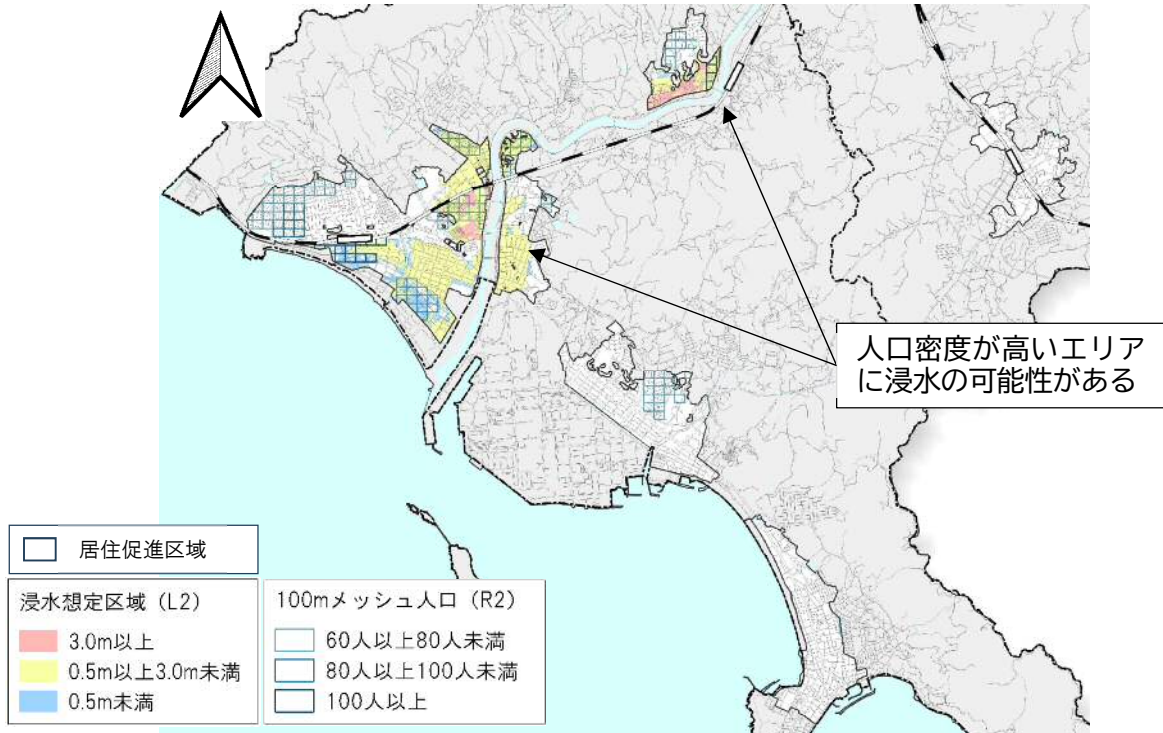
0.5m～3.0未満の浸水の可能性があるエリアに平屋の建物が存在しており、垂直避難による安全確保ができない場合があります。



## イ 浸水想定区域（想定最大規模 L2）

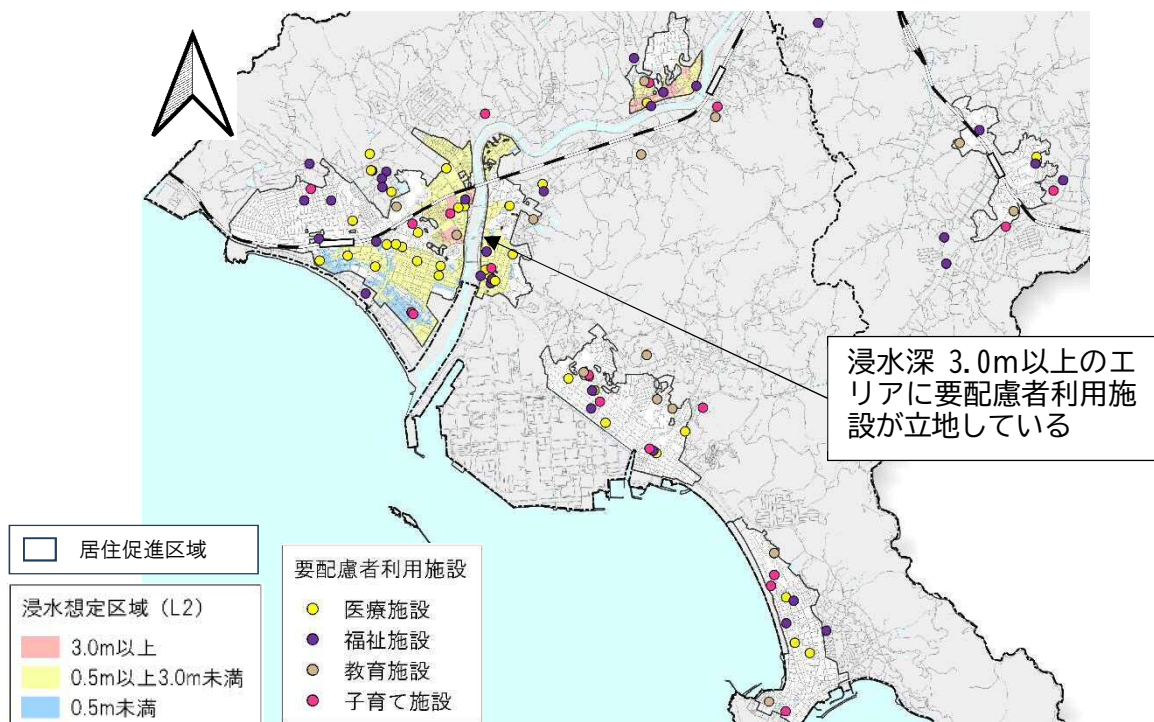
### （ア）人口密度との重ね合わせ

光駅周辺、島田川周辺、島田駅周辺など人口密度が高いエリアに0.5～3.0m、3.0m以上の浸水の可能性があり、計画規模(L1)よりも多くの住居や要配慮者利用施設が被災するおそれがあります。



### （イ）都市機能との重ね合わせ

3.0m以上の浸水の可能性がある地域は、垂直避難による安全確保が困難であると考えられますが、該当エリアに要配慮者利用施設が立地しています。



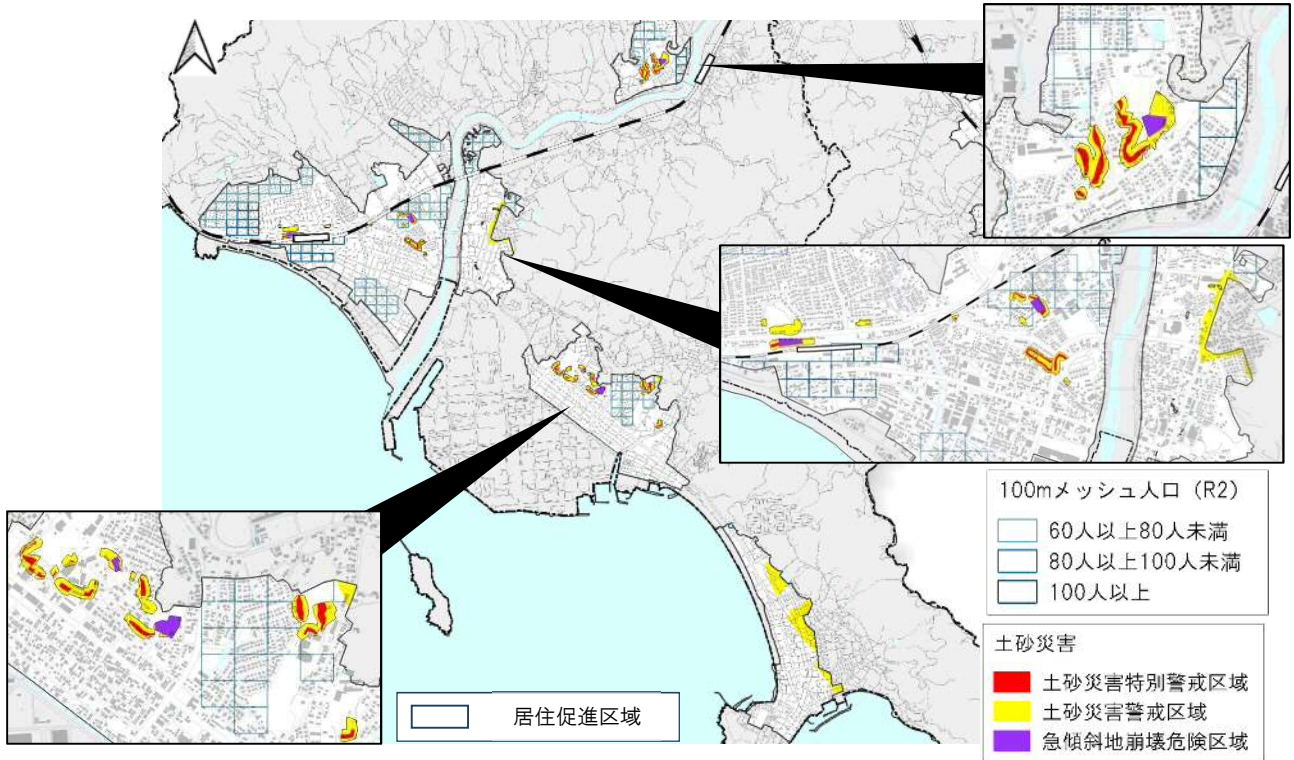


## (2) 土砂災害

### ア 人口密度との重ね合わせ

土砂災害特別警戒区域・土砂災害警戒区域・急傾斜地崩壊危険区域は居住促進区域から除外することとします。

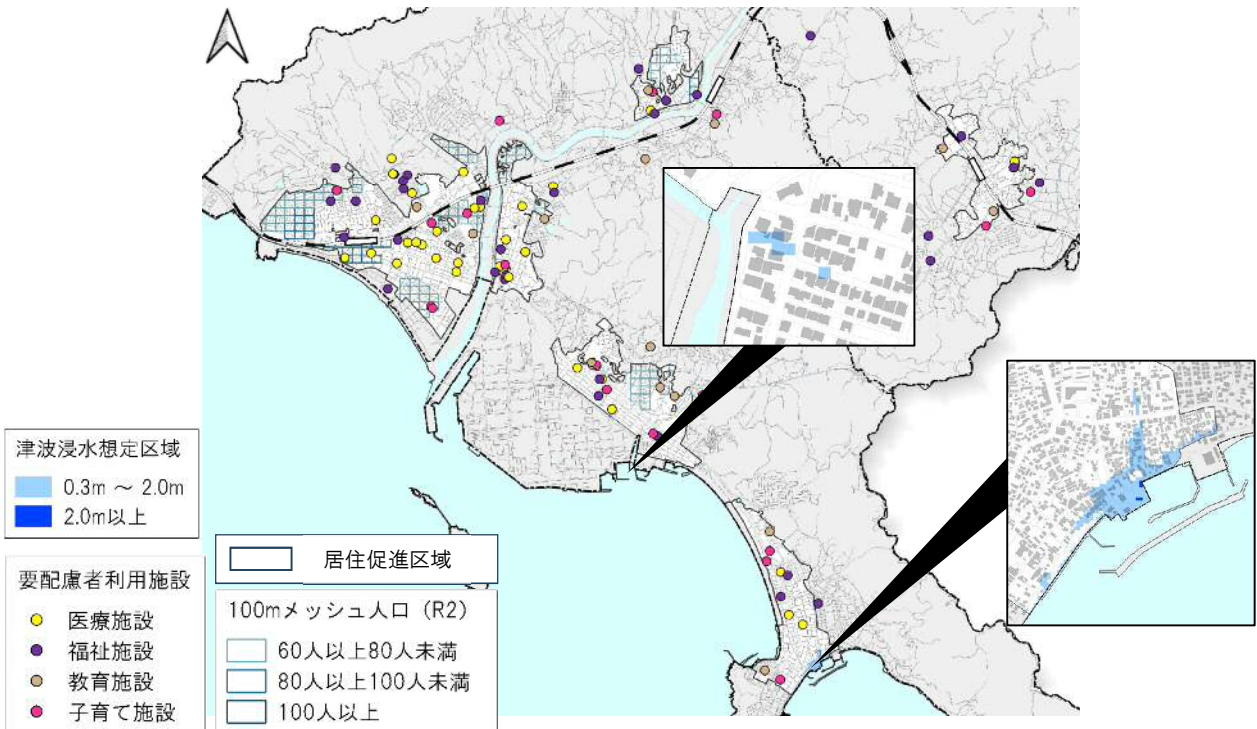
居住促進区域に近接して、ハザードエリアが点在しています。



## (3) 津波・高潮

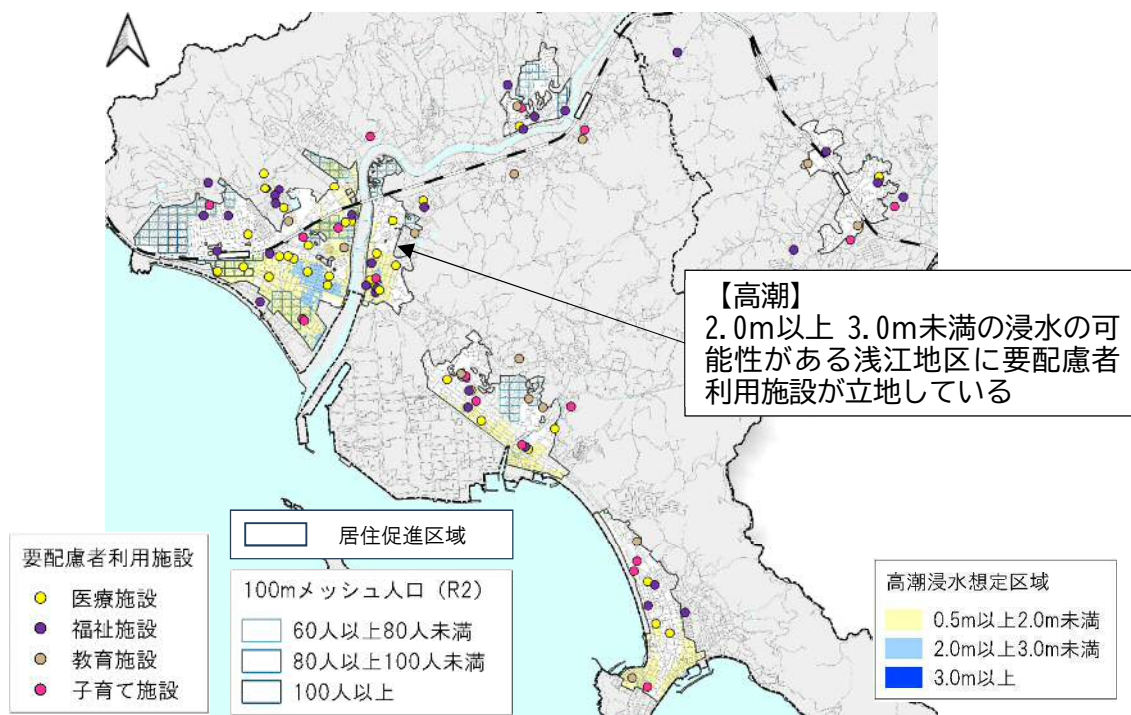
### ア 人口密度及び都市機能との重ね合わせ【津波】

津波については、浸水の可能性は限定的となっています。



## イ 人口密度及び都市機能との重ね合わせ【高潮】

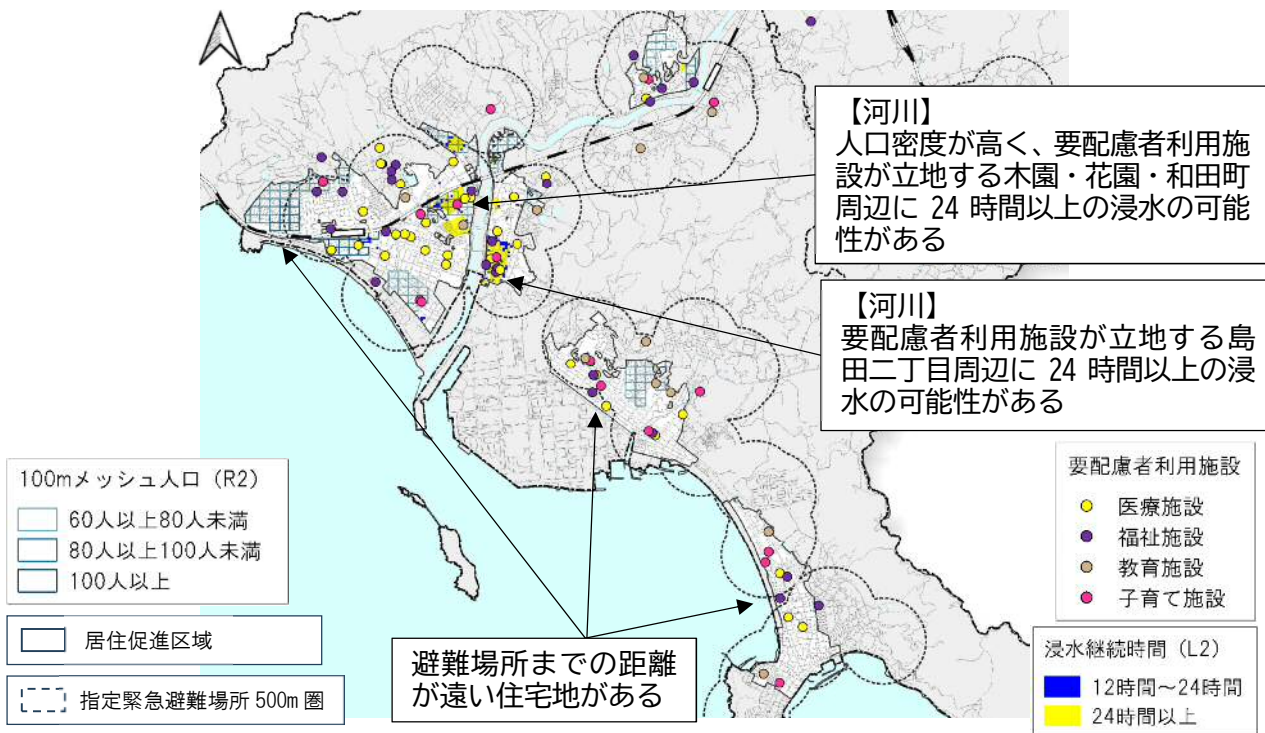
高潮については、浅江地区の一部で2.0m～3.0m未滿、光駅～市役所周辺の広範囲に0.5m～2.0m未滿の浸水の可能性があり、浸水の可能性がある地域に要配慮者利用施設が立地しています。



## (4) 浸水継続時間

### ア 人口密度、浸水継続時間、都市機能、避難場所 500m圏の重ね合わせ【河川】

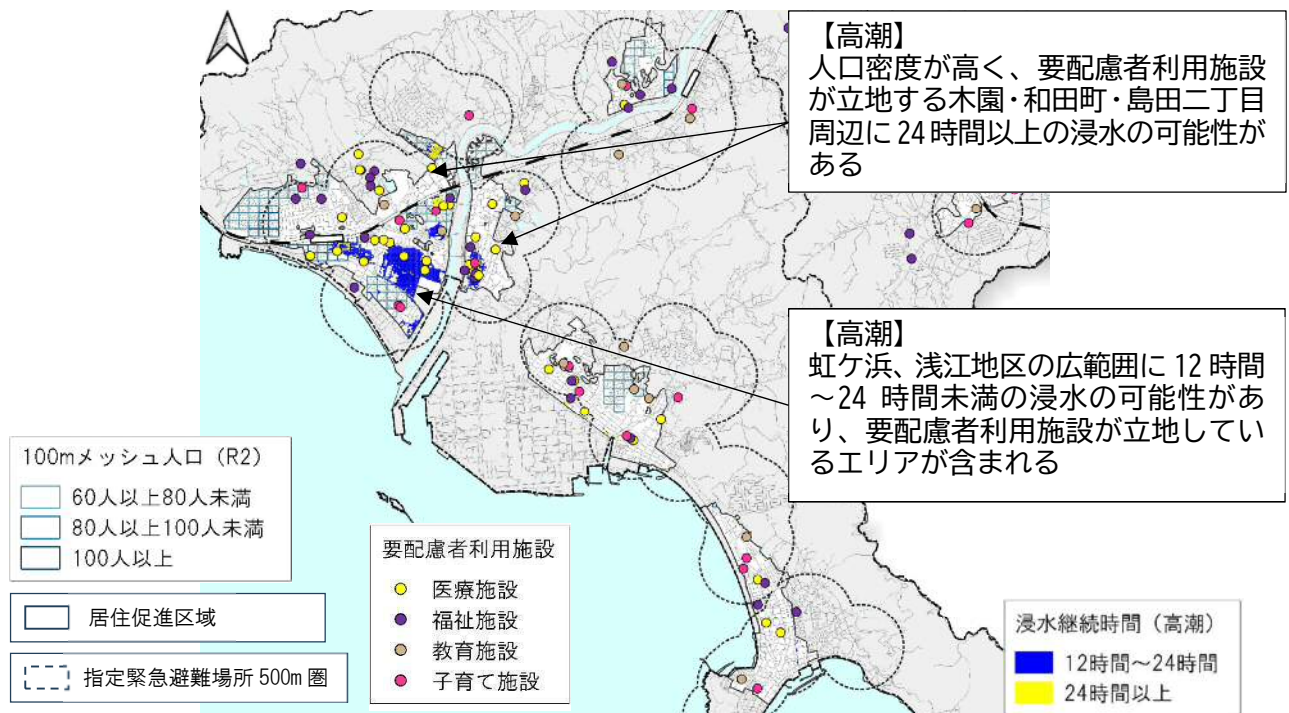
河川洪水については、島田川沿岸エリアで24時間以上の浸水の可能性があります。





## イ 人口密度、浸水継続時間、都市機能、避難場所 500m圏の重ね合わせ【高潮】

高潮については、木園一丁目・和田町・島田二丁目周辺で24時間以上、虹ヶ浜、浅江地区等の広範囲で12時間～24時間の浸水の可能性があり、要配慮者利用施設が立地しています。



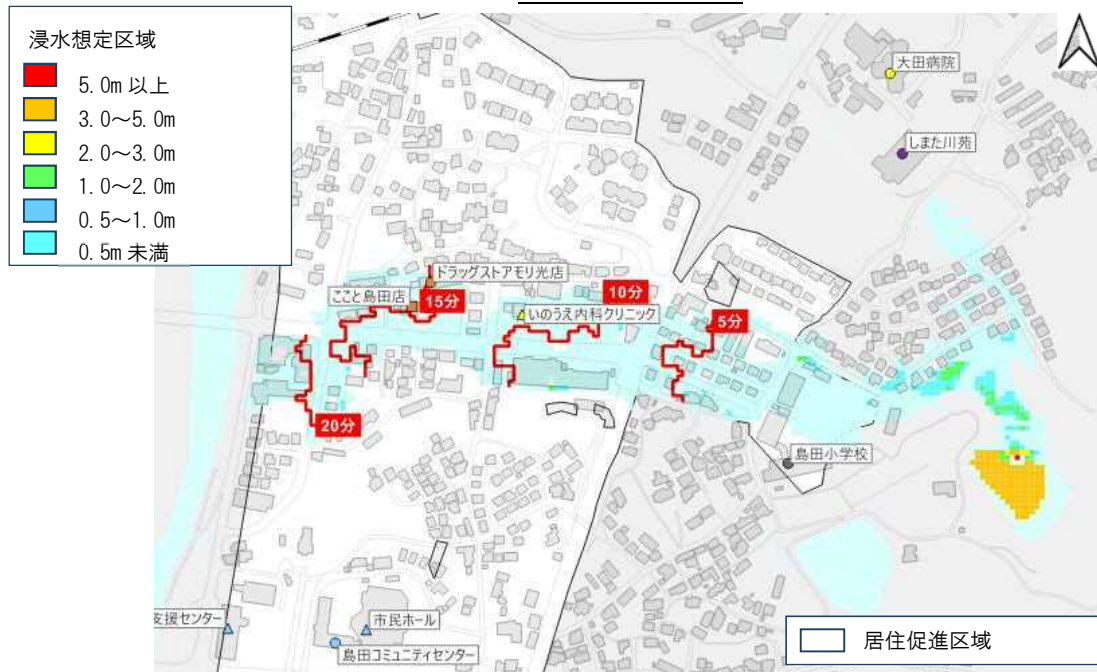
## (5) ため池

### ア 都市機能との重ね合わせ

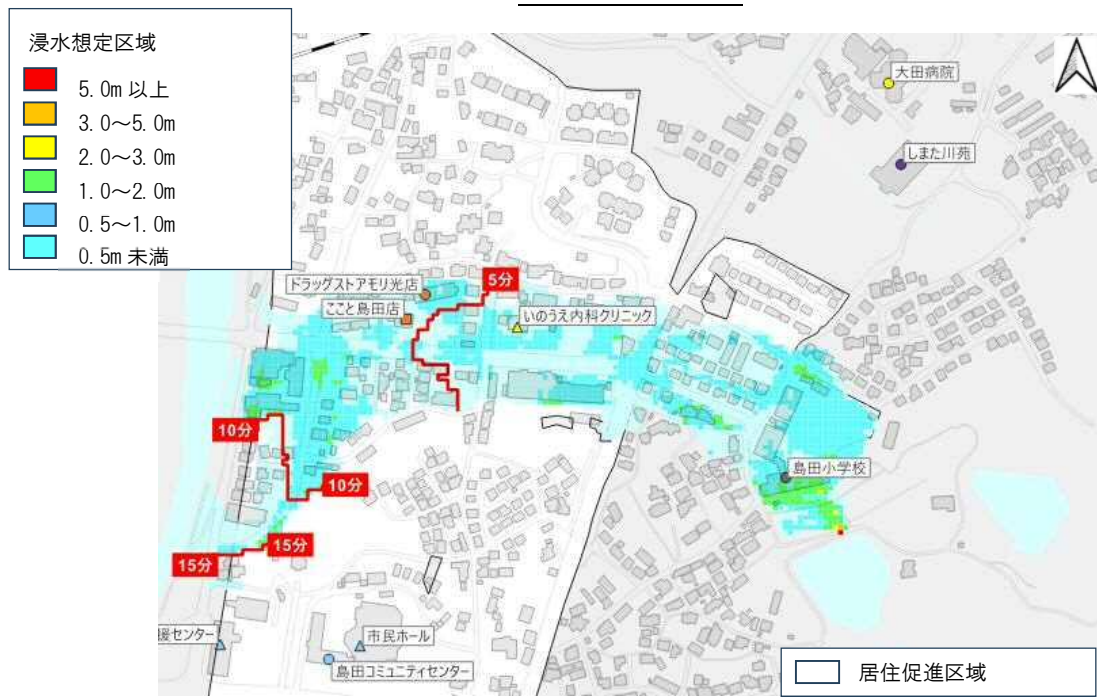
ため池については、宮ノ尾1号ため池、宮ノ尾2号ため池の決壊により島田小学校や住宅地に及ぶ範囲の浸水が想定されています。

さらに、宮ノ尾2号ため池は、島田小学校、住宅地の浸水深が1.0m～2.0mの区域があります。

宮ノ尾1号ため池

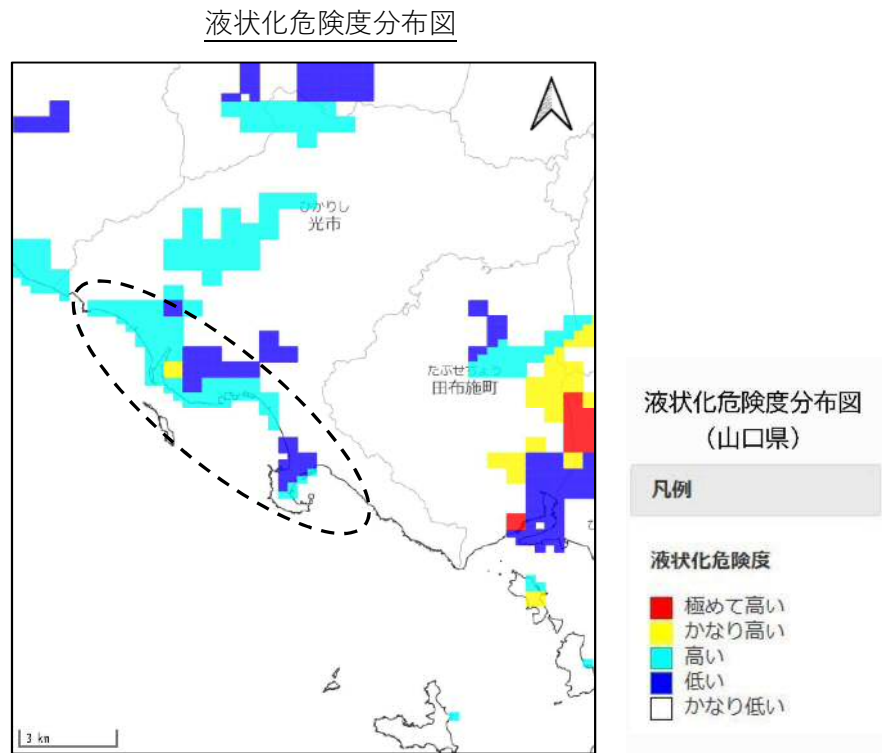
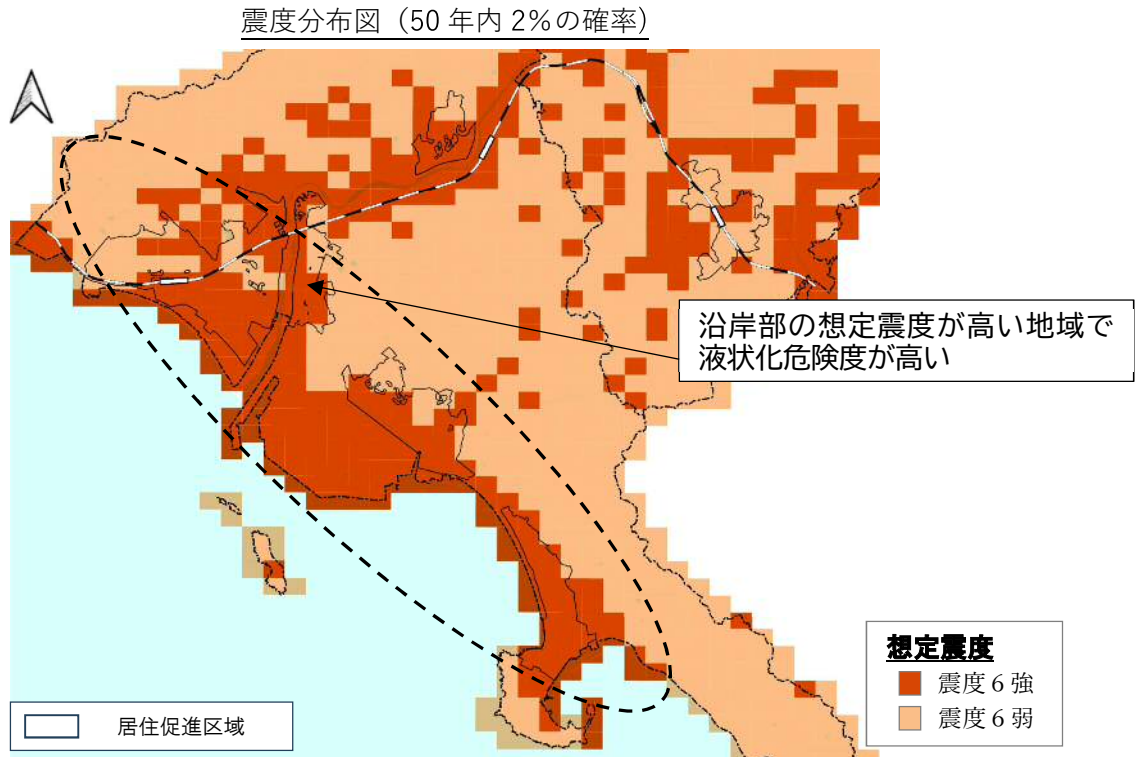


宮ノ尾2号ため池



## (6) 地震・液状化

光駅周辺、島田川周辺、島田今後50年以内に2%の確率で起きると予想される震度分布図では、想定される震度が高い臨海部等のエリアで液状化現象の可能性が高くなっています。

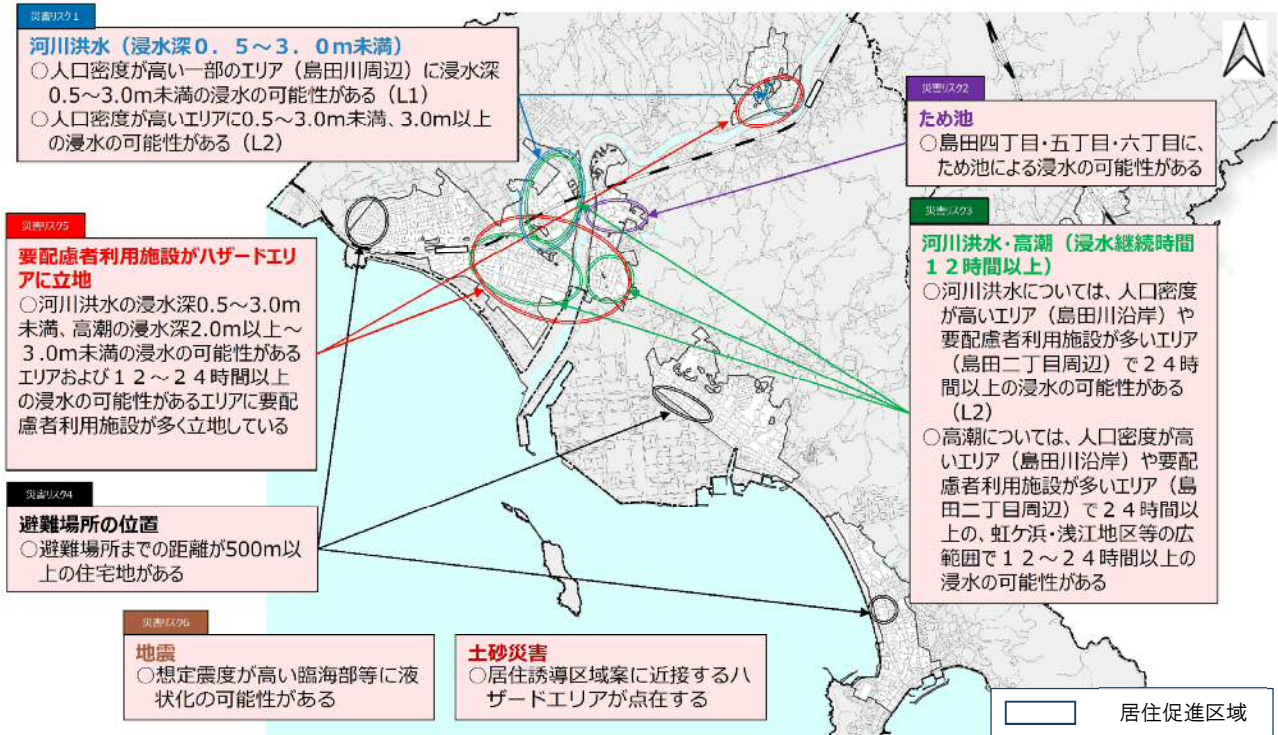


出典：都市計画基礎調査・重ねるハザードマップ



## 4 防災上のリスクの抽出

これまでの分析結果を整理した居住促進区域における都市防災上のリスクは以下のとおりです。



## 5 防災まちづくりの取組方針

本市の防災まちづくりは、ハザードエリアの分布や都市現況の分析結果から抽出した防災上の課題に対し、災害リスクの「回避」と「低減」を図ることにより、コンパクトで安全なまちづくりを推進することを基本的取組方針とします。

### 居住促進区域内における災害リスクの回避・低減／コンパクトで安全なまちづくりの推進

#### 災害リスクの「回避」

☞ 災害ハザードエリアにおいて、災害時に被害が発生しないよう、リスクを生じさせる要因そのものを取り除くための取組

本市では、

- ・ 居住促進区域の設定において、一定以上の災害リスクがある区域を除外し、より安全性の高いエリアへの居住の促進を目指す。（※都市機能誘導区域からも除外）

#### 災害リスクの「低減」

☞ 災害ハザードエリアにおけるハード・ソフトの対策等により、被害を軽減させるための取組

本市では、

- ・ 防災に関する関連計画である「光市国土強靱化地域計画」や「光市地域防災計画」等に基づき、防災・減災に資する各種ハード対策及びソフト対策を推進する。
- ・ 市が講じる施策だけでなく、国・県等との連携が必要な取組についても防災指針に記載し、周知・啓発を図るとともに、継続的な連携を図ることとする。

### (1) 災害リスクの回避

「都市計画運用指針」（国土交通省 令和6年3月）において、居住促進区域（一部都市機能誘導区域を含む）に含めない区域及び含めることに判断が必要な区域等が定められています。

本市では、指針で定められた事項に準拠し、災害発生上の特性や被災実績も踏まえ、居住促進区域に含めないエリアを設定します。

| 都市計画運用指針      |                                       | 区域の有無<br>(市内) | 基本的な考え                           |
|---------------|---------------------------------------|---------------|----------------------------------|
| 居住促進区域に含めない区域 | 土砂災害特別警戒区域<br>(土砂災害防止法)               | あり            | 居住促進区域に含めない<br>(都市機能誘導区域からも除外する) |
|               | 浸水被害防止区域                              | なし            | —                                |
|               | 災害危険区域（建築基準法）<br>(建築物の建築が禁止される区域)     | なし            | —                                |
|               | 地すべり防止区域<br>(地すべり等防止法)                | なし            | —                                |
|               | 急傾斜地崩壊危険区域<br>(急傾斜地の崩壊による災害の防止に関する法律) | あり            | 居住促進区域に含めない<br>(都市機能誘導区域からも除外する) |

|                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                     |                        |                                                            |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|------------------------------------------------------------|
| 居住促進区域に含めることについては慎重に判断を行うことが望ましい区域                                                                            | 工業専用地域、流通業務地区等、法令により住宅の建築が制限されている区域（都市計画法）                                                                                                                                                                          | あり<br>・工業専用地域          | 住宅の建築制限があるため、居住促進区域に <b>含めない</b>                           |
|                                                                                                               | 特別用途地区、地区計画等のうち、条例により住宅の建築が制限されている区域                                                                                                                                                                                | あり<br>・特別用途地区<br>・臨港地区 | 住宅の建築制限があるため、居住促進区域に <b>含めない</b>                           |
|                                                                                                               | 過去に住宅地化を進めたものの居住の集積が実現せず、空地等が散在している区域                                                                                                                                                                               | なし                     | －                                                          |
|                                                                                                               | 工業系用途地域が定められているものの工場の移転により空地化が進展している区域                                                                                                                                                                              | なし                     | －                                                          |
| 災害リスク、警戒避難体制の整備状況、災害を防止し、又は軽減するための施設の整備状況や整備見込み等を総合的に勘案し、居住を誘導することが適当ではないと判断される場合は、原則として、居住促進区域に含まないこととするべき区域 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害警戒区域（土砂災害防止法）</li> <li>・津波浸水想定区域（津波防災地域づくりに関する法律）</li> <li>・洪水、高潮浸水想定区域（水防法）</li> <li>・都市洪水想定区域、都市浸水想定区域（特定都市河川浸水被害対策法）</li> <li>・調査結果等により判明した災害の発生のおそれのある区域</li> </ul> | あり                     | 市街化区域の約6割が何らかのハザードエリアに指定されており、生命の保護の観点から <b>災害の種別ごとに検討</b> |

| 災害種別 | 災害特性（ガイドラインより）                                                                                                                                                            | 命を脅かす危険性があり、立ち退き避難が必要となる災害事象（ガイドラインより）                                                                                                                                         | 主な該当エリア  |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------|
| 土砂災害 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害は命を脅かすことが多い</li> <li>・洪水等の他の水災害と比較すると突発性が高く、正確な事前予測が困難であり、発生してからは逃げることは困難で木造住宅を流失・全壊させるほどの破壊力を有しているため、人的被害に結びつきやすい</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>①背後等に急傾斜地があり、降雨により崩壊し、被害のおそれがある場合</li> <li>②土石流が発生し、被害のおそれがある場合</li> <li>③地すべりが発生し、被害のおそれがある場合</li> </ul>                               | 土砂災害警戒区域 |
|      | 基本的な考え                                                                                                                                                                    | 参考図                                                                                                                                                                            |          |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・相対的に災害発生の予見性が高くないため、居住促進区域に<b>含めない</b>（都市機能誘導区域からも除外する）</li> </ul>                                                                | <p> <span style="color: yellow;">■</span> 土砂災害警戒区域（土石流）<br/> <span style="color: cyan;">■</span> 土砂災害警戒区域（急傾斜地の崩壊）<br/> <span style="color: red;">■</span> 土砂災害警戒区域（地すべり） </p> |          |



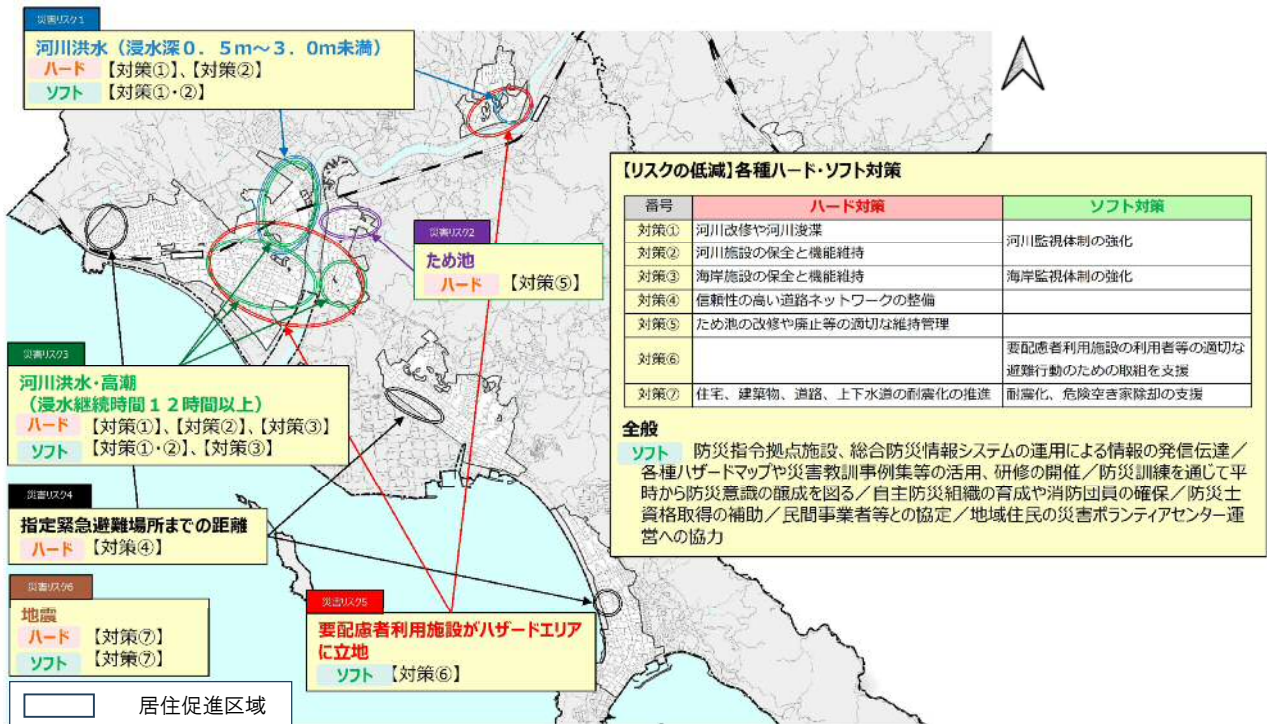
| 災害種別 | 災害特性（ガイドラインより）                                                                                                                                                                                                                                    | 命を脅かす危険性があり、立ち退き避難が必要となる災害事象（ガイドラインより）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 主な該当エリア                                                                                 |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 洪水等  | <p>・河川水位の上昇に伴う堤防の決壊や溢水等によって発生するため、水位等の河川の状況や、堤防等の施設の異常に係る情報等によって、避難情報の発令を判断する必要がある</p>                                                                                                                                                            | <p>①堤防から水があふれたり（越流）、堤防が決壊したりした場合には、河川から氾濫した水の流れが直接家屋の流失をもたらすおそれがある場合<br/>           ②山間部等の川の流れの速いところで、河岸侵食や氾濫流により、家屋流失をもたらすおそれがある場合<br/>           ③氾濫した水の浸水の深さが深く、平屋の建物で床上まで浸水するか、2階建て以上の建物で浸水の深さが最上階の床の高さを上回ることに、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合<br/>           ④人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その利用形態と浸水想定から、その居住者・利用者に命の危険が及ぶおそれがある場合<br/>           ⑤ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合</p> | <p>・家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流／河岸浸食）<br/>           ・洪水浸水想定区域（L1）<br/>           ・洪水浸水想定区域（L2）</p> |
|      | <p>基本的な考え</p>                                                                                                                                                                                                                                     | <p>参考図</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |                                                                                         |
|      | <p>○家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流／河岸浸食）は、居住促進区域に<b>含めない</b>（都市機能誘導区域からも除外する）<br/>           ○洪水浸水想定区域は、以下の通り<br/>           ・浸水深 3.0m以上のエリアは、居住促進区域に<b>含めない</b><br/>           ・浸水深 3.0m未満のエリアは、相対的に災害発生の予見性が高く、避難が遅れた場合でも垂直避難が考えられるため、居住促進区域から<b>除外しない</b></p> |  <p>■ 洪水浸水想定区域 浸水深 3.0m以上<br/>           ■ 家屋倒壊等氾濫想定区域（河岸浸食）<br/>           ■ 家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流）</p>                                                                                                                                                                                             |                                                                                         |

| 災害種別 | 災害特性（ガイドラインより）                                                                                          | 命を脅かす危険性があり、立ち退き避難が必要となる災害事象（ガイドラインより）                                                                                                         | 主な該当エリア         |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|
| 津波   | <p>・局所的に高くなる場合もある<br/>           ・20cm から 30cm 程度の高さであっても、急で強い流れが生じるため、これに巻き込まれて流されれば、命を脅かされる可能性がある</p> | <p>①津波による浸水のおそれがある場合<br/>           ②海岸堤防等より陸側が浸水することはないものの、海岸や海中で津波の強い流れにより人が流されるなどの被害のおそれがある場合</p>                                           | <p>津波浸水想定区域</p> |
|      | <p>基本的な考え</p>                                                                                           | <p>参考図</p>                                                                                                                                     |                 |
|      | <p>・津波は、東日本大震災のデータにより浸水深 2.0m以上になると建物全壊率が大幅に増加するため、津波浸水想定区域が浸水深 2.0m 以上の区域は、居住促進区域に<b>含めない</b></p>      |  <p>■ 津波浸水想定区域 2.0m以上<br/>           ■ 津波浸水想定区域 2.0m未満</p> |                 |

| 災害種別 | 災害特性（ガイドラインより）                                                                                                                            | 命を脅かす危険性があり、立ち退き避難が必要となる災害事象（ガイドラインより）                                                                                                                                                                                      | 主な該当エリア                                                                             |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
|      | 命を脅かす危険性があるケース：<br>・潮位が海岸堤防等の高さを大きく越えるなどにより、広い範囲で深い浸水が想定される場合<br>・潮位が堤防を越えなくとも、高潮と重なり合った波浪が海岸堤防を越えたり、堤防が決壊したりすること等により流入した氾濫水等が、家屋等を直撃する場合 | ①高潮時の越波や浸水により、家屋の流失をもたらす場合<br>②浸水の深さが深く、平屋の建物で床上まで浸水するか、2階建て以上の建物で浸水の深さが最上階の床の高さを上回ることにより、屋内安全確保をとるのみでは命に危険が及ぶおそれがある場合<br>③人が居住・利用等している地下施設・空間のうち、その利用形態と浸水想定から、その居住者・利用者に命の危険が及ぶ恐れがある場合<br>④ゼロメートル地帯のように浸水が長期間継続するおそれがある場合 | 高潮浸水想定区域                                                                            |
| 高潮   | 基本的な考え                                                                                                                                    | 参考図                                                                                                                                                                                                                         |  |
|      | ・高潮は、予見性が高く事前に準備、避難をすることで災害リスクの低減効果が大きいので、高潮浸水想定区域は、居住促進区域から除外しない                                                                         |                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                     |

## (2) 災害リスクの低減

居住促進区域における都市防災上のリスクを踏まえ、災害リスクを低減するために必要なハード対策及びソフト対策は以下のとおりです。



※各エリアの特性や現在の取組状況を踏まえた対応方策を表したものであり、実施の決定や、対象エリアの限定を表すものではありません。

## 6 具体施策・目標値

### (1) 具体施策

これまでに抽出した防災上のリスク及びリスクへの対応策の具体施策は以下のとおりです。

| 災害リスク                                                                                                         | 災害種類                 | 対応方策 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 関連事業                                                           | 事業主体 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|------|
| <b>災害リスク1</b><br><b>災害リスク2</b><br><b>災害リスク3</b><br>浸水深0.5m～3.0m未満であるものの、平屋の建物や12時間以上の浸水継続エリアがあり、垂直避難できない場合がある | 河川洪水<br>高潮・津波<br>ため池 | ハード  | ○浸水被害の軽減・最小化を図るため、県が進める二級河川の河川改修等を着実に促進するとともに、中小河川の堆積土砂の浚渫により流下能力回復による排水対策を推進する。【対策①】<br><br>○浸水被害の軽減・最小化を図るため、水門や護岸の保全と整備を推進する。【対策②】<br><br>○過去に繰り返し甚大な被害が発生した高潮や、発生が懸念される地震・津波に備えるため、海岸保全基本計画に基づき、計画的に海岸保全施設の整備を推進する。【対策③】<br><br>○営農を継続する老朽化したため池については改修工事を実施し、今後、利用が見込まれないため池については廃止するなど、地域の実情を踏まえ、集中的かつ計画的に農村地域の防災・減災に向けた取組を推進する。【対策⑤】 | ・島田川水系流域治水プロジェクト<br>・海岸保全基本計画<br>・国土強靱化地域計画<br>等               | 県・市  |
|                                                                                                               |                      | ソフト  | ○防災指令拠点施設、総合防災情報システムの運用により効率的な情報の発信伝達を図る。【対策①、②】                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                | 市    |
| <b>災害リスク4</b><br>避難場所までの距離が遠い                                                                                 | 河川洪水<br>高潮・津波        | ハード  | ○災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築するため県による道路整備に協力し道路整備の促進を図るとともに、地域の課題や利用者ニーズを踏まえながら、避難に必要な生活道路の整備に努める。【対策④】<br><br>○大規模災害時においても道路の機能を発揮させるため、個別の施設計画に基づく老朽化対策に努める。特に、橋梁については5年に1回の頻度で定期点検を行い、健全度の把握を進めるとともに、光市橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕・更新を推進する。【対策④】                                                                                                      | ・山口県道路整備計画「やまぐち未来開拓ロードプラン」<br>・光市橋梁長寿命化修繕計画<br>・市内橋梁の定期点検<br>等 | 県・市  |
|                                                                                                               |                      | ソフト  | ○迅速・適格な避難指示等の防災情報の伝達【対策全般】                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | ・情報伝達手段の多様化<br>等                                               | 市    |
| <b>災害リスク5</b><br>要配慮者利用施設がハザードエリアに立地している                                                                      | 河川洪水<br>高潮・津波        | ソフト  | ○避難行動要支援者名簿の更新・拡充や名簿情報の共有、個別計画の策定等、防災関係部署と福祉関係部署が連携した取組を推進する。【対策⑥】                                                                                                                                                                                                                                                                          | ・避難行動要支援者名簿の更新、個別計画の策定<br>・ホームページでの情報提供<br>等                   | 市    |
| <b>災害リスク6</b><br>市内の大部分で建物倒壊のリスクがある                                                                           | 地震                   | ハード  | ○多数の者が利用する建築物等（大規模建築物）について、県と協力し、耐震化を促進する。【対策⑦】                                                                                                                                                                                                                                                                                             | ・光市耐震改修促進計画<br>・光市営住宅等長寿命化計画<br>・水道管路の耐震化（光市水道事業ビジョン）<br>等     | 県・市  |



|   |    |     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                |   |
|---|----|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|---|
|   |    | ソフト | <p>○地震による住宅の倒壊被害等から市民を守るため、住宅・建築物の耐震化に対する支援を行う。【対策⑦】</p> <p>○市民の安全・安心な暮らしを守ることを目的として、危険空き家除却の支援を行う。【対策⑦】</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | <p>・光市耐震改修促進計画</p> <p>・光市住宅・建築物耐震化促進事業</p> <p>・光市危険空き家除却促進事業</p> <p>等</p>      | 市 |
| - | 全般 | ソフト | <p>○防災指令拠点施設、総合防災情報システムの運用により効率的な情報の発信伝達を図る。</p> <p>○各種ハザードマップや災害教訓事例集等の活用、研修の開催等を通じて防災知識の普及・啓発を図るとともに、市民や民間事業者等が参加する防災訓練を通じて平時から防災意識の醸成を図る。</p> <p>○地域ぐるみによる防災活動の促進、防災意識の醸成に係る取組等を通じて、自主防災組織の育成や消防団員の確保など防災の担い手づくりの取組を進める。</p> <p>○防災士資格取得の助成等を通じて、自主防災組織内でリーダー的役割を果たせる人材の育成に努める。</p> <p>○迅速かつ効果的な応急対策が実施できるよう、協定の締結・拡充など、民間事業者等との連携・支援体制の整備に努めるとともに、協定に基づく効果的な運用を図る。</p> <p>○光市社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンターの運営に関する研修等を通じ、地域住民の災害ボランティアセンター運営への協力を強化する。</p> | <p>・防災士資格取得の助成</p> <p>・民間事業者等との協定</p> <p>・地域住民の災害ボランティアセンター運営への協力</p> <p>等</p> | 市 |

## (2) 取組スケジュール

| 災害種類                 | 対応方策 |                                                                                                         | 事業主体 | 短期<br>(5年) | 中期<br>(10年) | 長期<br>(15年) |
|----------------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------|-------------|-------------|
| 河川洪水<br>高潮・津波<br>ため池 | ハード  | ○浸水被害の軽減・最小化を図るため、県が進める二級河川の河川改修等を着実に促進するとともに、中小河川の堆積土砂の浚渫により流下能力回復による排水対策を推進する。【対策①】                   | 県・市  | →          | →           | →           |
|                      |      | ○浸水被害の軽減・最小化を図るため、水門や護岸の保全と整備を推進する。【対策②】                                                                |      |            |             |             |
|                      |      | ○過去に繰り返し甚大な被害が発生した高潮や、発生が懸念される地震・津波に備えるため、海岸保全基本計画に基づき、計画的に海岸保全施設の整備を推進する。【対策③】                         |      |            |             |             |
|                      |      | ○営農を継続する老朽化したため池については改修工事を実施し、今後、利用が見込まれないため池については廃止するなど、地域の実情を踏まえ、集中的かつ計画的に農村地域の防災・減災に向けた取組を推進する。【対策⑤】 |      |            |             |             |
|                      | ソフト  | ○防災指令拠点施設、総合防災情報システムの運用により効率的な情報の発信伝達を図る。【対策①、②】                                                        | 市    |            |             |             |

| 災害種類          | 対応方策 |                                                                                                                           | 事業主体 | 短期<br>(5年) | 中期<br>(10年) | 長期<br>(15年) |
|---------------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|------------|-------------|-------------|
| 河川洪水<br>高潮・津波 | ハード  | ○災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークを構築するため県による道路整備に協力し道路整備の促進を図るとともに、地域の課題や利用者ニーズを踏まえながら、避難に必要となる生活道路の整備に努める。【対策④】                   | 県・市  |            |             |             |
|               |      | ○大規模災害時においても道路の機能を発揮させるため、個別の施設計画に基づく老朽化対策に努める。特に、橋梁については5年に1回の頻度で定期点検を行い、健全度の把握を進めるとともに、光市橋梁長寿命化修繕計画に基づく修繕・更新を推進する。【対策④】 |      |            |             |             |
|               | ソフト  | ○迅速・適格な避難指示等の防災情報の伝達【対策全般】                                                                                                | 市    |            |             |             |
| 河川洪水<br>高潮・津波 | ソフト  | ○避難行動要支援者名簿の更新・拡充や名簿情報の共有、個別計画の策定等、防災関係部署と福祉関係部署が連携した取組を促進する。【対策⑥】                                                        | 市    |            |             |             |
| 地震            | ハード  | ○多数の者が利用する建築物等（大規模建築物）について、県と協力し、耐震化を促進する。【対策⑦】                                                                           | 県・市  |            |             |             |
|               | ソフト  | ○地震による住宅の倒壊被害等から市民を守るため、住宅・建築物の耐震化に対する支援を行う。【対策⑦】                                                                         | 市    |            |             |             |
|               |      | ○市民の安全・安心な暮らしを守ることを目的として、危険空き家除却の支援を行う。【対策⑦】                                                                              |      |            |             |             |
| 全般            | ソフト  | ○防災指令拠点施設、総合防災情報システムの運用により効率的な情報の発信伝達を図る。                                                                                 | 市    |            |             |             |
|               |      | ○各種ハザードマップや災害教訓事例集等の活用、研修の開催等を通じて防災知識の普及・啓発を図るとともに、市民や民間事業者等が参加する防災訓練を通じて平時から防災意識の醸成を図る。                                  |      |            |             |             |
|               |      | ○地域ぐるみによる防災活動の促進、防災意識の醸成に係る取組等を通じて、自主防災組織の育成や消防団員の確保など防災の担い手づくりの取組を進める。                                                   |      |            |             |             |
|               |      | ○防災士資格取得の助成等を通じて、自主防災組織内でリーダー的役割を果たせる人材の育成に努める。                                                                           |      |            |             |             |
|               |      | ○迅速かつ効果的な応急対策が実施できるよう、協定の締結・拡充など、民間事業者等との連携・支援体制の整備に努めるとともに、協定に基づく効果的な運用を図る。                                              |      |            |             |             |
|               |      | ○光市社会福祉協議会と連携し、災害ボランティアセンターの運営に関する研修等を通じ、地域住民の災害ボランティアセンター運営への協力体制を強化する。                                                  |      |            |             |             |

### (3) 目標値の設定

目標値は、防災・減災に関する上位・関連計画である「光市国土強靱化地域計画」との整合を図り、居住の促進や安全性の向上、コミュニティの維持を前提とするソフト対策の進捗状況等を評価する指標として以下のとおり設定します。

| 指標                                   | 現状値          | 目標値                         | 備考                      |
|--------------------------------------|--------------|-----------------------------|-------------------------|
| 水道管路の耐震化率                            | 39.1% (R2)   | 42.6% (R8) 市内               | 参考：<br>光市国土強靱化地域計画<br>等 |
| 災害時応援協定締結数                           | 49 件 (R3)    | 60 件以上 (R8) 市内              |                         |
| 自主防災組織率（加入世帯の割合）                     | 92.6% (R2)   | 97% (R8) 市内                 |                         |
| 消防団員数                                | 514 人 (R3)   | 500 人 (R8) 市内 <sup>※1</sup> |                         |
| 情報発信サービスの登録件数                        | 3,645 件 (R3) | 5,000 件 (R8) 市内             |                         |
| 防災重点農業用ため池対策箇所数                      | 4 箇所 (R3)    | 9 箇所 (R8) 市内                |                         |
| <b>※検討中（災害リスクを踏まえた居住人口等の定量的な目標値）</b> |              |                             |                         |

※1 「光市消防団の設置及び団員の定員、任免、服務、報酬等に関する条例」で定められた定員を目標値とします。